

国営土地改良事業等再評価 国営施設機能保全事業 「中勢用水地区」 再評価に係る技術検討会（第1回） 説明資料（案）



令和4年7月5日 東海農政局

目 次

1. 事業概要
2. 事業の進捗状況
3. 社会経済情勢の変化
4. 事業の重要な部分の変更の必要性の有無
5. 費用対効果分析の基礎となる要因の変化
6. 費用対効果分析の結果
7. 環境との調和への配慮
8. 事業コスト縮減等の取り組み
9. 広報活動の取り組み
10. その他

1. 事業概要

1-1 地域の概要（中勢用水の歴史）

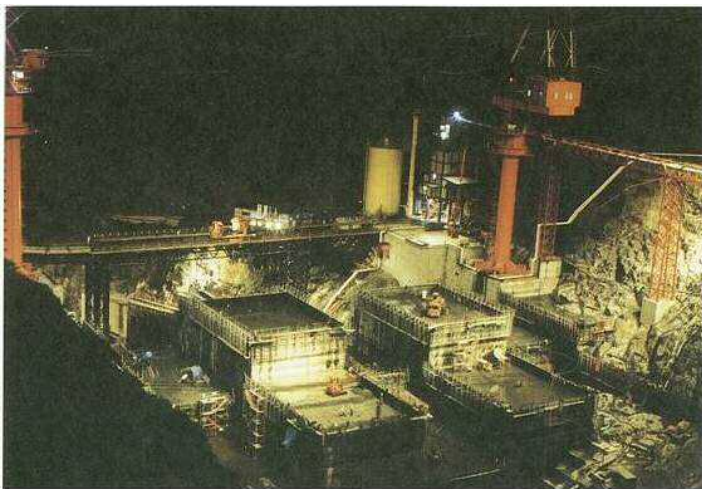
- 本地域は、鈴鹿山脈の
しゃくじょうがたけ
錫杖ヶ岳を源に、三重県
中央部の穀倉地帯を西から
東に貫流し、伊勢湾に
注ぐ安濃川の両岸に広がる
水田を中心とした農業
地帯である。



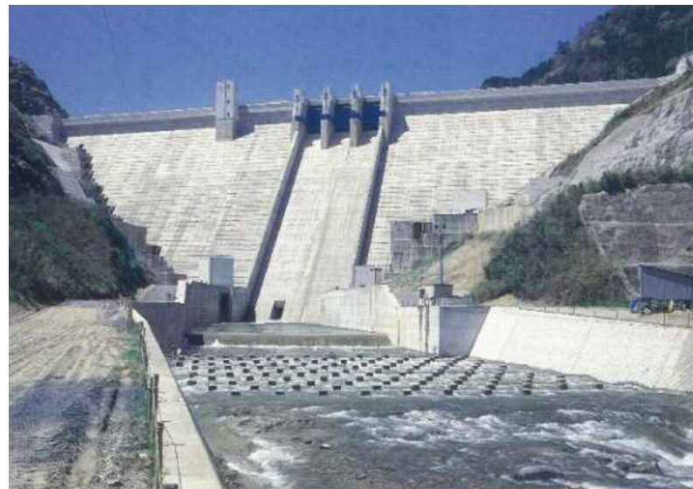
- 従来から多数の取水施設と複雑な配水組織による水管理がなされたが、安濃川の流路は約30kmと短く、水源が不安定であったため、江戸時代には、井堰開発が進んだものの、洪水の度に流失し、維持管理に多大な経費を要していた。

1-1 地域の概要（前歴事業の概要）

- 本地区における不安定な水利条件を解消するため、昭和47年から国営かんがい排水事業「中勢用水地区」を実施した。
- 安濃川の上流にダムを建設し水源を確保するとともに、22箇所 の井堰を4箇所の頭首工に整理統合した。
- 新規利水地域には用水路の新設により、計画的、効率的な配水を図った。



ダムコンクリート打設最盛期の夜間作業
(昭和58年8月)



前歴事業により造成された安濃ダム

【国営かんがい排水事業 「中勢用水」地区】

工期	S47～H2
受益面積	3,630ha
主要工事	・ 安濃ダム ・ 第三頭首工 ・ 南北分水路 ・ 用水路20.2km

1. 事業概要

基礎資料 P 1

1-2 事業目的（国営施設機能保全事業「中勢用水地区」の実施）

- 前歴事業で造成された農業水利施設は、近年の自然的条件の変化や、老朽化の進行により施設機能が低下し、円滑な維持管理に支障をきたしている。

【施設の現状】

① 安濃ダム



降雨状況の変化等により、ダム湖内への堆砂が想定以上に進行。

② 第三頭首工



左岸側のブロック護岸が一部崩壊している等、劣化が顕著。

③ 用水路



部分的に経年劣化による漏水、腐食等による機能低下。

④ 水管理施設



整備補修費が増加傾向にあるとともに、部品の製造中止で故障対応が困難。

➡ 施設機能の維持・保全、施設の長寿命化を図り、農業生産の維持及び農業経営の安定を図るため、本事業を実施中である。

1. 事業概要

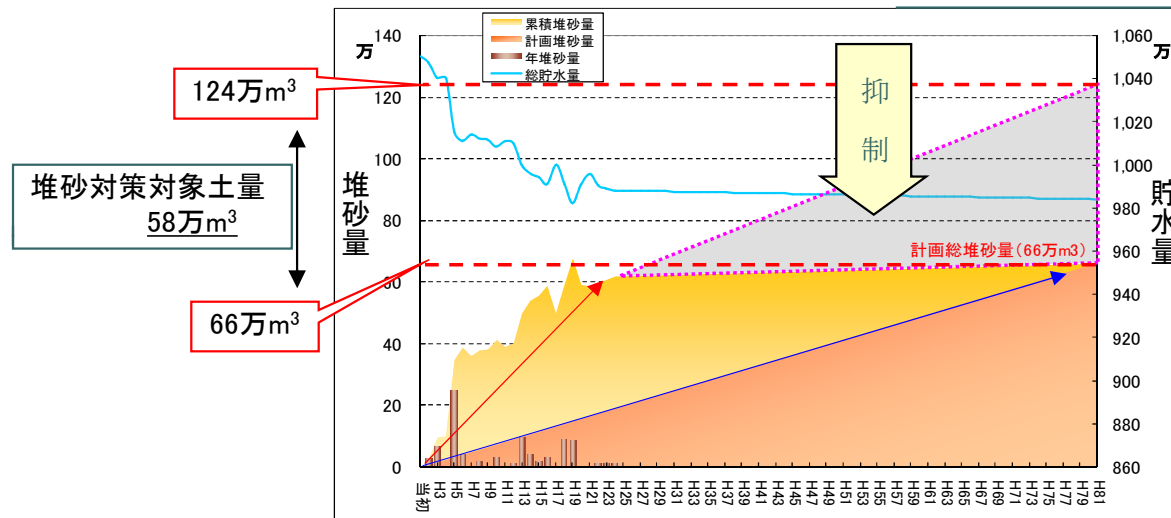
1-2 事業目的（安濃ダムの堆砂除去について）

ダムの計画総堆砂量 66万 m^3
（供用80年間で堆積する量を想定）



供用開始21年で59万 m^3 が堆砂

- ・ 約9割の堆砂が進行
- ・ 計画の3.5倍のスピードで堆砂が進行



- ・ このまま推移すると、供用80年を経過した時点の安濃ダムの堆砂量は 124万 m^3 と想定。（80年後の見込み堆砂量124万 m^3 = H21実績59万 m^3 + H13～H21の年間平均堆砂量1.09万 m^3 × 残年数60年）
- ・ 安濃ダムの機能保全のための堆砂対策の土量は、計画総堆砂量66万 m^3 との差分の58万 m^3 と設定。
- ・ 検討の結果、5期にわけて対策を行うことが経済的であり、1期対策である本事業では、施設の機能維持及びコストの面から最適となる堆砂除去量を約13万 m^3 と定め、堆砂除去を実施。

1. 事業概要

基礎資料 P 2

1-3 事業実施内容

事業名		国営施設機能保全事業
関係市		三重県津市、亀山市
受益面積		3,183ha
主要 工事 計画	ダム	安濃ダム（改修一式）
	頭首工	第三頭首工（改修一式）
	用水路	導水路（改修 L=0.3km）
		北幹線水路（改修 L=0.1km）
		中幹線水路（改修 L=0.2km）
		南幹線水路（改修 L=0.3km）
	水管理施設	水管理施設（改修一式）
事業費		2,500百万円（令和4年度時点：4,225百万円）
工期		平成24年度～令和5年度